

別記様式(第5条関係)

会 議 録

会議の名称	福津市健康づくり推進協議会	
開催日時	令和7年 3月 6日(木)	午後 3時00分から 午後 4時00分まで
開催場所	ふくとぴあ 1階 にこにこルーム	
委員名	(1)出席委員 古野 貴、中島 究、坂口 尚登、松尾 和枝 松原 秀治、城野 加代子、漆谷 慎一、田島 勝彦 野中 多恵子	
所管課職員職氏名	健康福祉部長 青谷 哲也 高齢者サービス課長 桑野 晃明 いきいき健康課長 寺島 徹 子育て世代包括支援課保健指導係長 安部 真理 子育て世代包括支援課子育て世代包括支援係長 大橋 由紀 いきいき健康課健康づくり係長 権現 陽子 いきいき健康課健康づくり係長 川原 律之 いきいき健康課健康づくり係 河野 佑軌	
会 議	議 題 (内 容)	令和7年度福津市保健事業計画(案)について
	公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開
	非公開の理由	
	傍聴者の数	なし
	資料の名称	令和7年度福津市保健事業計画(案)
会議録の作成方針	<input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全文記録	
	<input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録	
	<input type="checkbox"/> 要点記録	
	記録内容の確認方法:会長確認	
その他の必要事項		

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

次 第

1. 開会のことば
2. 辞令交付
3. 会長挨拶
4. 議事
5. 閉会のことば

古野会長：では、議事(1)令和7年度福津市保健事業計画案について、に入ります。

（事務局各担当より説明）

古野会長：委員の皆様から、今の報告について質問などはありますか。

野中委員：子育て世代包括支援課が実施されている、乳幼児健診のところでは、5歳児健診を実施することについて、保健所の方も早い段階で出来ないかということで、研修も予定されています。発達障害のお子様の早期発見から学童につなげていくという大きな主旨がある中で、福津市の令和7年度計画にはあがっていないのですが、今現在の状況について教えてください。

事務局 安部：5歳児健診については、各自治体の実態を研究しているところです。実施については、財政面などの問題がありますが、実態として困っている方もいらっしゃると思いますので、5歳児健診という形ではないですが、アンケートをとって支援につなげるといった取り組みを考えているところです。

野中委員：健康診断は、全てのお子様をスクリーニングします。3歳児健診や困りごとを言ってきた人だけでは漏れてしまう方もいらっしゃるのかと思いますので、健康診断をやる意味はあると思います。あとは、マンパワーや財政面の問題もあると思いますので、保健所としてはどういったことが揃えば市で実施できるのか、代替で条件を満たしていればそれにかわるものでも良いとも聞いていますし、福津市は子どもが多い自治体でもありますので、保健所もできる限り協力していきながら、実現できたらいいなと思います。

古野会長：5歳児健診については、最終的には各自治体に組み込まれるということでしょうか。

野中委員:国にとっては、今すぐにも始めて欲しいというところです。

田島委員:高齢者の地区巡回型介護予防検診事業について、これは実施については市が行うのか、自治会等を通じて要望するのか教えてください。

事務局 桑野:こちらは4月に入りましたら、自治会やシニアクラブ、福祉会等にお知らせさせていただいて、申し込みしていただく形になります。

田島委員:自治会等で希望者を募集してということでしょうか。

事務局 桑野:はい、そうです。

松尾委員:いろいろと事業名を変えるなど、工夫がみられますね。食生活改善推進事業については、どこも高齢化に伴い参加者数が減っていますが、セミナー等を開催するにあたって、どれくらいの人が集まっていますか。メンバーの年齢構成なども教えていただければと思います。

城野委員:今現在、40名の会員がいらっしゃいます。学習会などには、だいたい24名くらいは来ています。高齢化が進んでいますので、車に乗ってこれられない方が多く、来年度は会員さんが楽しく参加できるようなことを係長たちと意思統一しながら話し合っています。セミナーについては、一昨年に新しい管理栄養士さんが市役所に入られて、色々とお話してくれることもあり、増えてきています。私もお手紙を出すなどしています。

松尾委員:参加する、最初の一步を踏み出させるというのが大事ですね。食進会という女性が集まりというイメージですが、これからの時代は女性・男性と言っている時代ではないと思うのですが、男性はどれくらい参加されていますか。

城野委員:男性は40人中4人です。

松尾委員:男性も含めて増えていくような方法があれば、教えていただけたらと思います。もう一つ質問でノーバディーズ・パーフェクト・プログラム、これは難しい事業名ですが、これに参加されるような方をどのように見つけて、どういった方が集まって、どのようなことをするのか教えていただけたらと思います。

事務局 大橋:ノーバディーズ・パーフェクト・プログラムは名前だけ聞くとわかりにくいのですが、カナダ生まれのプログラムで、カナダで使われている英語名を日本語に訳さず、そのまま使っています。NPと略していて、他の自治体でもNPと称されて定着しています。ただ、市民向けには、もう少し講座名を考えたほうがいいのかなど、今のご指摘で思い

ました。対象者の募集は一般公募が前提ですが、お誘い枠もあります。こちらは、乳幼児健診などで保健師が「フォローが必要だ」と感じた親に向けて個別にアプローチしたり、のびのび発達支援センターに通われている保護者の方にお声かけをしたり、家庭児童相談室から情報提供があって、そういうご家庭にお声かけするといった、市からお声かけする場合があります。令和6年度は定員12名ですが、今のところ8名でスタートしています。この講座には2名のファシリテーターがついているのですが、講座が始まる前に事前面談を行い、ご家庭のどういうところに子育ての課題を持っているかというところを聞いて、講座にのぞんでいます。全員が居心地の良い安心した環境で話せて、自分がどういったところに不安や負担を感じていて、それはどうやって解決していったらよいかをお互いに自分たちで考えながら、今後の子育て・子どもとどうやって向き合っていくかということについて、グループワークを通して考えています。講座自体は8回ですが、最後に課題が与えられて、それは参加された方たちだけで集まってくださいというものです。任意の参加になり、行政からの関与は無く、自分たちで集まって近況報告や子育ての悩みや不安を打ち明ける場です。講座が終わった後も自分たちで続けていて、子どもの成長に伴って自然消滅する場合がありますが、令和5年度の参加者は4回くらい集まっていると聞いています。

松尾委員：問題行動に気づけていない親もいる中で、そういった方を見つけて、仲間づくりをして発展していくことはいいのではないかなと思うのですが、8回の受講を終えてそのあとについて客観的に評価できたらいいと思うのですが、そのあたりは難しいものでしょうか。

事務局 大橋：そうですね。8回の講座の後については、市の方で追えるものではないので、人づてに聞くことでしか評価できません。そこは課題でもあります。

漆谷委員：親子料理教室について、内容は小学生とその保護者ということで良いと思うのですが、親以外の人から育てられている子どももいると思うので、親子ではなく、何かほかの適切な表現にしてほしいと思うのですが。祖父母であったり、児童擁護士であったりなど、親がいない又は同居していない方もいますので。

事務局 権現：親子の方が分かりやすい、保護者と一緒に来てくださいという意味合いが分かりやすいので、何かほかに適切な分かりやすい表現があればと思うのですが、思いつきません。皆さまから何か良い表現があれば教えていただけたらと思います。保護者料理教室にしても、保護者がいないという場合もあります。

事務局 桑野:家族とかは。

事務局 権現:家族もいらっしやらない場合がありますので。大人の方と一緒に参加してほしい、子どもだけでは参加できないとなっているのですが、これをどう一言で表現したものかと。今、何か良いアイデアがあれば教えてください。

漆谷委員:子どもと大人の料理教室は。

城野委員:昨年夏休みに実施したのですが、親は仕事に行っているので、おばあちゃんが来られていたのが何組かありました。

松尾委員:誰と誰が聴講するのか、子どもは何をするのか、方法論が先に来ているので、目的を明確にするのはあるのかなと思います。

事務局 権現:「親子料理教室」の下に「こども食育教室」があつて、こちらは子どもさんだけで参加でき、小学4年生からの参加になっているのですが、親子料理教室は1年生から3年生のまだ一人で料理教室は…という方が一緒に来ていただくということで名前の違いになっています。

松尾委員:低学年が親子料理教室、高学年がこども食育教室ですか。

事務局 権現:はい。低学年料理教室にすると、親が行っていいのかどうかということにもなりますので。

古野会長:またなにか良いタイトルがつけられればそれで、ということで皆さんに考えていただいて。ただ今実際のところ、お話にあったようにおばあちゃんとお孫さんで参加するといったような、ある程度その意図は浸透しているかなと思います。詳細な言葉について話し出すと難しくなりそうです。もっと良い教室名がつけばそれが一番とは思いますが、急に浮かぶものではないと思いますのでそこは皆さま持ち帰るということで。

漆谷委員:上は低学年料理教室、下は高学年料理教室として、ただし上は保護者の参加が必要です、と書けばわかりやすいかなと思うのですが。

古野会長:これはPRするときはタイトルとその詳細、こういった方が対象ですとは書かれているのですよね。

事務局 権現:はい。

古野会長:では、要検討ということでよろしいでしょうか。

一同:はい。

野中委員:1 ページ目に糖尿病性腎症重症化予防事業で、市の方や三師会の先生方からも委員になっていただく会議をしながら、市の方とは年間通して何回か集まって、取り組みを検討させていただいているところです。宗像地域は腎症の病気の軽い方が多く、そういった方々にこのプログラムをご案内しているのですが、指導率が5%くらいでした。協議の中で、日ごろから軽い段階、糖尿病や高血圧がある段階から透析だったり硬化したりしないように、日ごろからの啓発を皆でしながら、私たちが連携して住民の方のためにやっていきたいと思いますということを確認させていただきましたので、今日お集りの皆さまにおかれましては、所属の方や身近な方たちにこういったプログラムの良さを伝えていただきながら、一人でも多くの方が透析などにならないようになればいいなと思いました。それから4 ページの肝炎検査があるのですが、これにつきましては、地域と保健所の連携会議がありまして、福岡県全体でもそうなのですが、宗像地域は肝がんの死亡率がすごく高くて、肝がんはアルコールであったり食生活の問題であったり原因でもありますが、ウイルス性の肝炎も肝がんや肝硬変にならないように肝炎ウイルスがいると分かれば、そこで治療をすすめることで防げるということで、福津市も肝炎検査をしていることを共有しています。職域の方も、肝炎ウイルスを持っていると肝がんや肝硬変になるという予防の知識を持っていらっしゃるということを確認して、保健所もそのあたりの啓発はやっていこうとしているところです。今日お集りの皆さまにおかれましても、市はこういった取り組みをされているので、40 歳という節目だけしている市町村もありますが、福津市は40 歳以上と幅広く対象となっていますので、受けやすい形になっているかと思っておりますので、この取り組みは続けていただけたらと思いますのでよろしくお願いいたします。

古野会長:特定健診のがん検診で肺がん検診と結核健診が同時実施となっていますが、今までは別々に料金を取っていたのでしょうか。

事務局 権現:いいえ。今までは結核健診は無料だったのですが、予約は別々になっていました。

古野会長:医師からしたら、がんと結核を分けることはないのですが、どちらもレントゲンで診る同じ健診ですね。

事務局 権現:これまでは予約が別々だったので、お声かけさせていただいたのですが、これからは65 歳以上の方はどちらもということにいたしました。

古野会長:複雑にされていたんですね。不思議だなと思ってお尋ねしました。

野中委員：結核健診は結核予防法のほうで、がん検診は補助金でということもあったのではないのでしょうか。

事務局 権現：そうですね。もともとが違ったので分かれていたのかと。他市町村の状況も確認し、同時受診に変更します。

古野会長：それでは、委員の方から出た意見や質問について、次年度以降の事業に反映させられるものは事務局の方で反映させてもらうということで、議事については承認いただいてよろしいでしょうか。

(一同承認)

古野会長：これですべての議事が終了いたしました。